【再評価】

Ｎｏ．１６　津久井湖城山公園　都市公園整備事業

◆　事業概要

１．概要

１）全体の概要

ア）県立都市公園の整備・管理では、県立都市公園の成立経緯と特性、これまでの取組みを踏まえ、環境問題、少子高齢化、大規模地震災害への対応などの社会状況の変化に対応するため、４つの視点から 10 の施策の方向性を定めている。個々の公園においては、各公園の立地や利用の状況に応じて、以下の施策を実施している。

Ⅰ自然環境の保全と活用
- (1)生態系や生物多様性への配慮
- (2)地球環境問題等への地域からの対応

Ⅱ 災害対応とバリアフリー化の推進
- (3)緊迫する自然災害への対応
- (4)誰もが楽しめる公園づくり

Ⅲ 地域活性化への貢献
- (5)歴史や文化の継承と創造
- (6)地域と一体になった魅力の向上

Ⅳ 効率的で効果的な公園整備とサービス
- (7)より良いサービスの提供
- (8)多様な主体との連携
- (9)既存公園の再生
- (10)骨格となるみどりの確保

イ）このような４つの視点を踏まえた上で、県全域での均衡配置を事業目標に都市公園整備を進めてきた。これまで 27 公園を開園し、多様なレクリエーションの提供や都市における緑の確保など一定の成果を収めている。

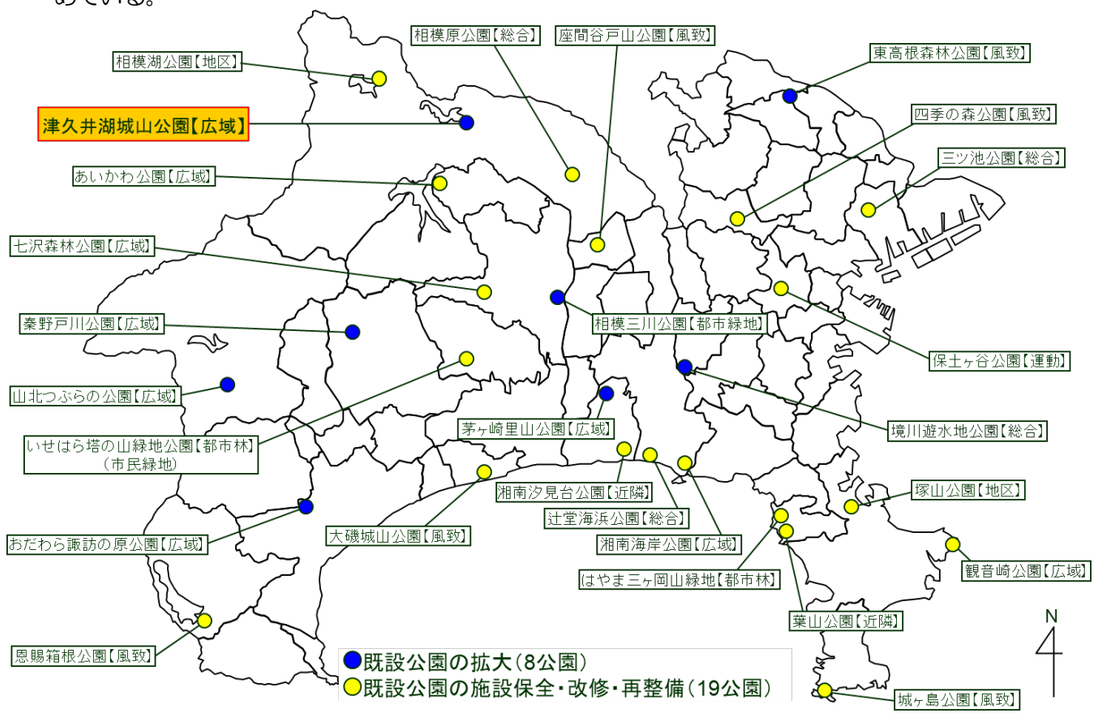

図１　県立都市公園配置図（平成３０年４月１日現在）
開園 27 公園、開設面積約 698ha、計画決定面積約 1,222ha（H30.4.1 現在）

２）評価対象事業の概要

ア）本公園は、神奈川県の北西部、ダム湖である津久井湖に隣接し、地域のランドマークである城山と湖畔園地で構成される計画面積約 98.3ha の広域公園である。

イ）城山は丹沢山地の一部であり、広大な樹林地とともに、戦国時代に築かれた「津久井城」の城郭遺構も残されている。

ウ）整備テーマに「自然と歴史のふれあい FRONT」を掲げ、平成 6 年度から整備を開始した。平成 11 年度に一部開園（約 5.6ha）し、平成 30 年 4 月現在、開園面積は約 77.7ha となっている。

エ）広域アクセスを可能にするさがみ縦貫道路（圏央道）が茅ヶ崎 JCT まで開通し、津久井広域道路が相模原 IC まで繋がったことで、今後、湘南地域及び県外利用者の増加が期待される。

図２　事業地周辺図

３）評価対象事業の位置づけ

ア）県の計画：

①かながわグランドデザイン （平成 24 年 3 月）
第２期実施計画（平成 27 年 7 月）主要施策・計画推進編 2015－2018
政策分野別の体系：Ⅶ 県土・まちづくり
中柱①：次の世代に引き継げる持続可能な県土造り
小柱④：自然環境に配慮したまちづくり、主要施策 707：都市公園などの整備
地域別の体系：県央地域圏
大柱①：広域的な交通ネットワークの形成と環境負荷の少ないまちづくりの推進
小柱③：良好な住環境の保全・創出・形成　　に位置づけられている。

②かながわ都市マスタープラン（平成 19 年 10 月改定）
第 5 章 部門別都市づくりの方針
（3）都市の個性や魅力を高める社会資本整備
イ）都市の憩いやうるおいの場となる公園・緑地の体系的整備　　に位置づけられている。

③かながわ生物多様性計画（平成 28 年 3 月）
法令・制度等を通じた生態系の保全の中の一手法として位置づけられている。

④神奈川県広域緑地計画（平成 8 年 12 月）
広域公園配置の考え方と基本方針のもとに計画した広域公園の 1 つである。

【再評価】

Ｎｏ．１６　津久井湖城山公園　都市公園整備事業

イ）市の計画

①相模原市水とみどりの基本計画 改訂版 ＝生物多様性さがみはら戦略＝（平成 27 年 3 月）
水とみどりのふれあい交流拠点として位置づけられている。

２．事業の経緯や必要性

１）経緯

平成　3 年　3 月	「第二次神奈川計画改訂実施計画」に新規公園として位置付け
平成　4 年　3 月	津久井湖城山公園基本構想を策定
平成　5 年　3 月	津久井湖城山公園基本計画を策定
平成　5 年 11 月	都市計画決定（面積 98.2ha、種別 広域公園）
平成　7 年　1 月	事業認可、用地取得着手
平成　9 年　6 月	都市計画決定の変更（面積 98.3ha）
平成 11 年　4 月	一部開園（約 5.6ha）
平成 13 年　4 月	開園区域の拡大（累計約 6.4ha）
平成 15 年　4 月	開園区域の拡大（累計約 12.9ha）
平成 16 年　4 月	開園区域の拡大（累計約 17.4ha）
平成 18 年　7 月	開園区域の拡大（累計約 25.9ha）
平成 22 年　7 月	開園区域の拡大（累計約 47.5ha）
平成 27 年　4 月	開園区域の拡大（累計約 77.7ha）

２）必要性

ア）事業着手当時、広域公園の空白地で市街地に近接する津久井地域において計画、整備され、地域の公共レクリエーション需要を満たしている。

イ）根小屋地区を構成する城山は、戦国時代の「津久井城」の遺構となっており、遺構の保全と利活用が図られている。

ウ）津久井観光協会のホームページで、津久井湖さくらまつりの会場として紹介されている。また、県立都市公園の中でも県外の利用者の割合が比較的高く、地域の観光に役立っている。

エ）４月のさくらまつりに加えて、５月の森のコンサートやルピナス祭り、10 月のもりの音楽会、11 月の収穫感謝祭など多くのイベントが開催され、地域の活性化に役立っている。

オ）年間利用者についても、増加の傾向を示している。

３．事業の目的

レクリエーション需要の増大に対応するための広域的なレクリエーション活動の拠点として、津久井湖や津久井城址等の地域固有の資源をできるだけ活用し、美しい風景の中で歴史的資源と自然環境を活用した公園を整備するものである。

４．事業の内容

１）**公園種別**：広域公園

２）**事業箇所**：相模原市緑区根小屋、太井、城山地内

３）**計画面積**：98.3ha

４）**主要施設**：（根小屋地区）パークセンター、研修棟、四季の広場、展望広場、森のステージ、里山広場、展望デッキ、デッキ園路、駐車場
（花 の 苑 地）ガーデンテラス（ハーブ・コニファー園、芝生広場）、駐車場
（水 の 苑 地）芝生広場、湖畔テラス、カスケード（噴水・滝）、駐車場

５．事業実施にあたり配慮した項目

１）幅広い意見の反映

・公園整備事業の実施に向け、遺構の保存等との調整を図るため、地元自治会や団体、学識経験者、関係機関等で構成する「県立津久井湖城山公園 整備と遺跡に関する調整連絡会」を設立し、幅広く意見を聞きながら事業を進めてきた。なお、平成 29 年度からは、「県立津久井湖城山公園 整備と管理・運営に関する連絡会」に再編し、管理・運営に関する施策を含めている。

２）整備に関する配慮

・周遊園路の整備では、基礎部分の掘削範囲が小さいピン・ファウンデーション工法を採用し、遺構や樹林等への影響を最小限に抑えた。また、その他の園路も、現況の地形に沿って整備することでイニシャルコストの低減と、環境への配慮をしている。

図３　全体平面図

写真１　整備と管理・運営に関する連絡会

写真２　根小屋周遊園路（ﾋﾟﾝ・ﾌｧｳﾝﾃﾞｰｼｮﾝ工法）

【再評価】

Ｎｏ．１６　津久井湖城山公園　都市公園整備事業

◆ チェックリスト

（１）事業の必要性等に関する視点

①事業を巡る社会経済状況

ア）地域の状況

- 平成 27 年 3 月の圏央道相模原 IC 開通にあわせて、津久井広域道路も新小倉橋西側から串川ひがし地域センターまで約 2.8 ㎞開通し、橋本駅付近（橋本五差路）から約 8 ㎞が通行可能となった。

イ）地元の意識

- 周辺に広域公園は無く、豊かな自然や歴史的風土を有し、ボランティア活動も盛んであることから、地元からの事業に対する期待が高い。
- 観光協会が開催する「津久井湖さくらまつり」の会場に利用されており、観光振興上、必要な公園と認識されている。

ウ）公園利用者数の推移

- 利用者数は開園区域拡大とともに増加し、現在５０万人前後で推移している。
- 圏央道開通により、平成 28 年度に相模湖・相模川流域への観光客数が過去 20 年間で最も多い 1,650 万人となった。

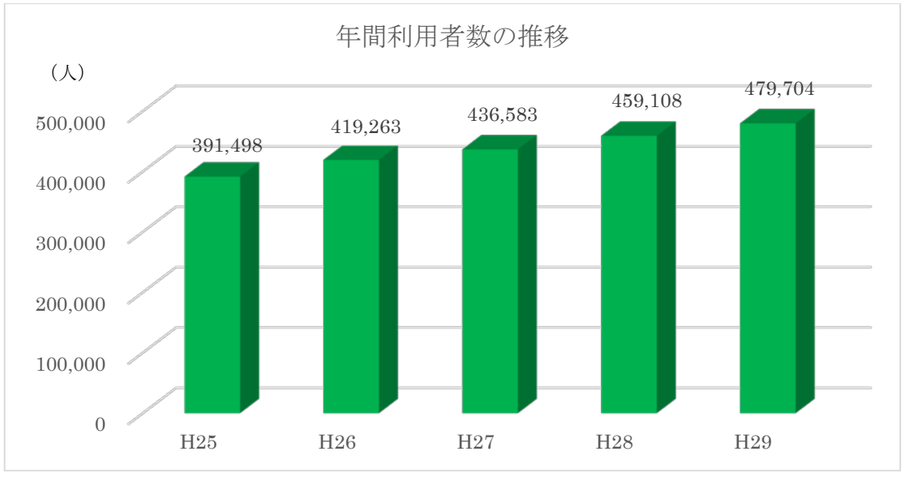

図４　年間利用者数の推移

②事業の投資効果等

■費用対効果

Ｂ／Ｃ＝総便益／総費用＝2,525.7億円／３２０.７億円 ≒ 7.9（経済的内部収益率：２４.８%）

総便益：2,525.7億円　直接利用価値：　２５０.３億円

間接利用価値：2,２７５.４億円

総費用：　３２０.７億円　用　地　費：　１２５.１億円

施　設　費：　１２８.９億円

維持管理費：　６６.７億円　（※金額は現在価値）

■上記便益に算定されていない効果

ア）遺構の保存と継承

公園の中心に位置する城山は、戦国時代に山城である「津久井城」が築かれ、現在も、その遺構を中心とした歴史資源が残されている。都市公園としては、これらの遺構を保存し、発掘調査や津久井城を活用したイベントなどにより、歴史的風土を感じながら、憩い楽しみ学ぶことができるフィールドとして提供している。

イ）地域への貢献に対する効果

定期的な自然観察会のほか、子ども対象のネイチャーゲームなどの野外遊びイベントでは、地域で活躍する自然観察指導員や研究者、ボランティア団体会の方を講師に迎え、地域の自然にふれあう機会を提供している。また、4 月のさくらまつりでは地域特産品の販売場、フリーマーケット会場を提供することで地域に貢献している。

ウ）地域の活性化に対する効果

通常の公園利用ばかりでなく、３月の「津久井城まつり」、４月の「さくらまつり」、５月の「森のコンサート」や「ルピナスまつり」、10 月の「もりの音楽会」、11 月の「収穫感謝祭」、定期開催の「つくい逸品昼市」などが地域の風物詩となっており、地域の活性化に寄与している。

エ）バリアフリー対応

「根小屋地区」は一周約 2 キロのスロープ状園路が整備されており、車椅子やベビーカーの方でも、里山の豊かな自然や、津久井城の遺構の姿を味わうことができる。

写真３　発掘調査見学会

写真４　自然観察会

写真５　津久井城まつり

写真６　さくらまつり

写真７　森のコンサート

写真８　園路（バリアフリー）

【再評価】

Ｎｏ．１６　津久井湖城山公園　都市公園整備事業

③関係する地方公共団体等の意見

■相模原市

津久井湖を中心とした、水とみどりの自然資源を活かし、人、自然、まち、文化、歴史などが交わる水とみどりのふれあい交流拠点づくりを進めるため、観光資源となる公園の整備・拡大の促進を望んでいる。

「県立津久井湖城山公園整備と遺跡に関する調整連絡会」においても文化財保護、公園、経済観光、それぞれの分野から相模原市が積極的に参加している。

■県立津久井湖城山公園 整備と管理・運営に関する調整連絡会

文化財を保護し、地元の理解と協力を得ながらの公園事業の推進を要望している。

■根本自治会・小網自治会

地域の歴史的資源を活用し、地域全体が活性化するような公園整備を期待している。

（２）事業の進捗の見込みの視点

①事業の進捗状況

■事業化年度　：平成６年度
■用地着手年度：平成６年度　　■工事着手年度：平成８年度
■進捗率：９９.２％（事業費ベース）　　■用地取得率　：８７.８％
■供用率：７９.０％（開設面積７７.７／計画面積９８.３ｈａ）
■残事業の内容等：用地買収、山頂部展望広場等の一部整備

②これまでの課題に対する取り組み状況

計画区域のほぼ全域が埋蔵文化財包蔵地となっているため、文化財調査を行いながら施設整備を進めており、地元や学識経験者の意見を聞く場を設け、事業を実施している。

③今後のスケジュール

平成 29 年度末時点での事業進捗率は 99%となっている。平成 30 年度に用地買収を行い、平成 32 年度までに山頂部広場等の整備を進める。

表１　今後のスケジュール

	H30 年度	H31 年度	H32 年度
用地買収	■		
調査	■	■	
工事	■	■	■

（３）コスト縮減や代替案立案等の可能性の視点

■コスト縮減の可能性

地形の改変は最小限に抑え、現況の地形・植生等を生かした公園整備にすることで、イニシャルコストの低減を図るとともに、ボランティア連携による維持管理を進めることで、引き続きコスト縮減を図る。

■代替案立案等の可能性

津久井城址、津久井湖等の地域固有の資源を有することを最大限活用し、整備事業を進めていることから、代替案立案は必要ない。

写真９　津久井城址　発掘状況

写真１０　芝生広場（水の苑地）から城山

写真１１　収穫感謝祭

◆　対応方針案

継続	【理由】 本事業は、津久井湖や津久井城址等の地域固有の資源を最大限活用した公園の整備を目指しており、地元からの事業に対する期待度も高く、ボランティア活動も盛んである。事業進捗率は 99%であり、事業の必要性に変化はなく重要性は依然として高いことから、事業を継続する必要があると判断する。